

瑞芳院本堂及び庫裡（ずいほういんほんどうおよびくり）について

員 数：1 棟
 所在地：一宮市中町
 所有者：宗教法人瑞芳院

名 称	形 式	大 き さ	建 設 年 代	登 録 基 準
瑞芳院本堂及び庫裡	木造平屋建、 瓦葺	建築面積 182 m ²	1813（文化10）年、 1915（大正4）年移築	国土の歴史的 景観に寄与し ているもの

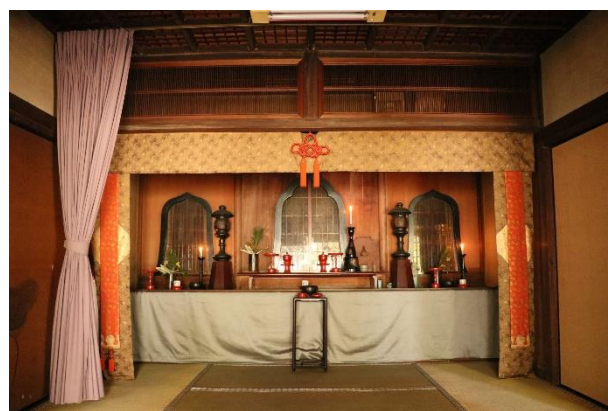
【概要】

濃尾地震被害からの復興に際し、妙興寺^{みょうこうじ}から移築した方丈^{ほうじょう}形式の本堂で、桁行北側に庫裏が連なる。切妻造、棧瓦葺で妻飾りを木連格子^{きつれごうし}と懸魚^{げぎよ}とし、四周に下屋^{げや}を廻らす。内陣は小組格天井^{こぐみごうてんじょう}で正面に箴欄間^{おさらんま}を構えて須弥壇^{しゆみだん}に花頭口^{かとうぐち}を並べる。市街地に歴史的景観を伝える。1813（文化10）年に建築され、1915（大正4）年に現在の位置に移築された。

- 方丈¹ 禅宗寺院における住職の居室をさすが、後には寺院本堂の形式の一つとなる。
 木連格子² 破風の後ろにつく格子状の妻飾。
 懸魚³ 破風につく装飾で、桁の木口を隠す。
 小組格天井⁴ 碁盤目状に組んだ格天井の格間に細かな格子を入れた天井。
 箴欄間⁵ 箴のように細かい縦組子を密に組んだ欄間。
 須弥壇⁶ 仏像や厨子を安置する壇。



外観正面（東面）



内観（内陣）

（画像は一宮市博物館提供）